

問1	九州地方にある阿蘇山は、中央部が円形に大きく窪んだ特殊な地形を持っています。火山活動によって火山灰や溶岩が大量に噴き出したあと、その場所が陥没してできたこのような大規模な窪地を何と呼びますか。 （2022年 愛媛県公立入試 類似）			
	1. リアス海岸	2. カルデラ	3. シラス台地	4. 扇状地
問2	13世紀に起こった元寇において、朝鮮半島から九州の博多湾を目指した元軍が、九州へ上陸する前に經由・侵攻した、九州の北西に位置する島を選択してください。 （2018年 三重県公立入試 類似）			
	1. 淡路島	2. 壱岐	3. 種子島	4. 対馬
問3	安価な外国産牛肉の輸入量が増加し、国際的な製品との競争が激しくなる中で、宮崎県の畜産農家が進めている取り組みとして適切な説明はどれですか。 （2022年 宮城県公立入試 類似）			
	1. 大規模な機械化によって生産コストを輸入牛肉よりも低く抑え、価格の安さで勝負する。	2. 牛肉の生産を段階的に縮小し、すべての農地を輸入の影響を受けにくいサトウキビ栽培に転換する。	3. 「宮崎牛」などの名称でブランド化を推進し、品質の高さや安全性で輸入品との差別化を図る。	4. 海外の安い飼料を使わず、国内産の高級な牧草のみを使用することで、販売価格を輸入品の10倍以上に設定する。
問4	九州地方の地理的環境とエネルギー産業について述べた次の文のうち、大分県の特徴について背景を含めて説明したものとして、正しいものはどれか。 （2024年 愛知県公立入試 類似）			
	1. 筑後川の下流域に広がる平野の地質を活かして、地熱発電よりも米の二毛作や麦の生産を優先して行っている。	2. リアス海岸が続く複雑な海岸線を活かして、大規模な風力発電所を建設し、製造品出荷額の大部分をエネルギー産業が占めている。	3. 阿蘇山などの火山帯に近い地理的条件を背景に、地下の蒸気を利用した地熱発電が発達し、全国有数の発電量を誇っている。	4. 南九州に位置する地理的条件から、地熱発電よりも日照時間の長さを活かした太陽光発電が産業の中心となっている。
問5	ある県の農業データとして、年平均降水量が2007.0mm、農業産出額が3512億円であり、そのうち果実の産出額が362億円、野菜の産出額が1248億円と、野菜の占める割合が非常に高くなっています。この県として該当するものを選びなさい。 （2026年 徳島県公立入試 類似）			
	1. 長野県	2. 熊本県	3. 高知県	4. 愛媛県
問6	九州地方南部に広がるシラス台地のような地形で、標高が高い平坦な面が主に「畑」として利用される理由として、最も適切な説明はどれですか。 （2020年 静岡県公立入試 類似）			
	1. 標高が高い場所は気温が低く、稲の生育に適さないため、寒さに強い作物を育てる必要があるから。	2. 台地の上は地盤が非常に軟弱であり、水田を作ると地盤沈下を引き起こす恐れがあるから。	3. 火山灰が降り積もった地層は水はけが良すぎて、稲作に必要な水を保持することが困難だから。	4. 標高が高い場所は平地よりも日照時間が短く、水田よりも畑の方が収穫が安定するから
問7	熊本県の農業統計において、農業産出額が1,247億円に達する「野菜」と、1,147億円に達する「畜産」が大きな割合を占めている特色について述べたものとして、最も適切なものはどれですか。 （2020年 熊本県公立入試 類似）			
	1. 近郊農業の特性を活かして野菜の生産のみに集中しており、畜産や米の生産はほとんど行われていない。	2. 広大な平野を利用した稲作に特化しており、農業産出額の大部分を米が占めている。	3. 米、野菜、畜産、果実などがバランスよく生産されており、特に野菜と畜産の産出額が非常に高い水準にある。	4. 果実と花きの生産に特化した構造となっており、野菜や畜産の産出額は全国平均を下回っている。
問8	九州地方南部に位置するある県では、県土の約73%を山地が占めるという地形的特徴があります。この県において、飼育頭数が約80万頭に達し、全国でもトップクラスの規模を誇っている家畜は何ですか。 （2024年 秋田県公立入試 類似）			
	1. 豚	2. 羊	3. 乳用牛	4. 馬
問9	鹿児島県などに広がるシラス台地において、古くから稲作よりも畑作や畜産が盛んに行われてきた理由として、土壌の性質の観点から最も適切な説明はどれですか。 （2017年 大分県公立入試 類似）			
	1. 非常に水はけが良く、水田に必要な水を蓄えておくことが困難なため	2. 標高が高く年間を通じて気温が低いため、稲の成長が著しく遅れるため	3. 河川から運ばれた土砂が固く堆積しており、田を耕すことができないため	4. 土壌に含まれる塩分濃度が高く、稲の根が枯れてしまうため
問10	九州地方北部に位置する筑紫平野では、夏に米を、冬に麦を栽培するといったように、同じ耕地で一年のうちに二種類の異なる作物を栽培する農業が行われています。このような栽培方法を何といいますか。 （2025年 京都府公立入試 類似）			
	1. 抑制栽培	2. 二毛作	3. 促成栽培	4. 二期作
問11	沖縄県の地域調査において、本土復帰から現代までの経済統計について考察した次の記述のうち、正しいものはどれですか。 （2018年 沖縄県公立入試 類似）			
	1. 復帰直後の沖縄県では基地関連収入が県民総所得の5.7%を占めるに過ぎなかったが、現在は基地の役割が増大し、その割合は30.4%に達している。	2. 基地関連収入の割合が大幅に低下したのは、県民総所得の総額が1972年時点よりも減少したためであり、沖縄経済の規模は縮小を続けている。	3. 県民総所得の総額は、1972年の約5,000億円から2014年の約4兆3,000億円へと増加しているが、基地関連収入の割合は依然として30%を超えている。	4. 1972年と2014年を比較すると、県民総所得に占める基地関連収入の割合は約4分の1以下に低下しており、基地に依存しない経済への転換が進んでいる。
問12	鹿児島県の自然環境と産業の特色について説明した文として、適切なものはどれですか。 （2024年 東京都公立入試 類似）			
	1. 県内の大部分が盆地で構成されており、火山灰の肥沃な土壌を活かして、ブランド米の生産が県内農業の収益の柱となっている。	2. 薩摩半島と大隅半島に挟まれた湾の中に桜島という活発な火山があり、周辺の台地では肉用牛や豚の飼育が盛んに行われている。	3. 温暖な気候を活かした促成栽培が中心であり、ピーマンやなすの生産量が日本一である一方、畜産業は小規模に留まっている。	4. 九州山地から流れる急流を活かした水力発電が盛んで、その安価な電力を利用して沿岸部ではアルミニウム工業が発達している。
問13	1980年から2000年にかけての九州地方における工業出荷額の内訳の変化について説明した文として、最も適切なものはどれですか。 （2016年 神奈川県公立入試 類似）			
	1. 加工組立型産業が海外移転により衰退し、再び鉄鋼や化学などの重化学工業が中心となった。	2. 食料品などの生活関連型産業が急増し、工業出荷額において電気機械を上回り首位となった。	3. 石油化学コンビナートの増設により、化学工業の出荷額が電気機械の出荷額を大きく引き離れた。	4. 鉄鋼や化学などの基礎素材型産業の割合が減少し、電気機械などの加工組立型産業の割合が増加した。